かねやま絆の森2024

協定締結者：富士フイルムBI山形株式会社
森林所有者：有限会社三英クラフト
主な活動場所：金山町朴山（0.69ha）
協定期間：2010年4月1日～

令和6年5月18日（土）第26回かねやま絆の森・荘銀かねやま絆の森合同開催
参加組織：参加人数： 50名
参加組織：株式会社荘内銀行、株式会社ヤマコー、株式会社山形丸魚
協定4者：山形県、金山町、有限会社三英クラフト、富士フイルムBI山形株式会社

地域の皆様、お客様と共に今年 15年目を迎えました

5月18日（土）第26回かねやま絆の森現地活動を行いました。午前は杉苗の健康診断と下刈りの定期保育活動を行いました。杉が丈夫に育つためにはじゅうぶんな日光が必要で、人の手で下草や余分な枝を払い苗の成長をサポートをします。健康診断は定期的に杉のお腹周りや身長を自分達で測定し、生育状態を確認します。私たちは数十年後の未来を楽しみに、こうした手入れや健康診断を欠かさずに続けています。

活動① 6年生コンテナ苗の下刈り

植樹

植樹はほんの数センチ穴をあけて40cm程度のコンテナ苗を差し込むだけ。生育状況はとても良く、元気に育っています。

5年後

さらに
10年後には

作業後 きれいに下刈りして杉苗の存在感が出ました！

わたしたちは協定エリア内で 2タイプの杉苗を保育しています

2019年
次世代の
コンテナ苗
とってもコンパクト
でも成長しやすいよ！

2010年に
植えた
従来の杉苗
根っこが大きいね

コンテナ苗も10年後には、隣のエリアのような立派な森になります。

活動② 15年生苗の健康観察

植樹

慣れない作業で、50cmくらいの穴を何度も何度も鍬で掘りました。従来の苗は1本植えるのに時間と労力、そして技術が必要でした。

14年後

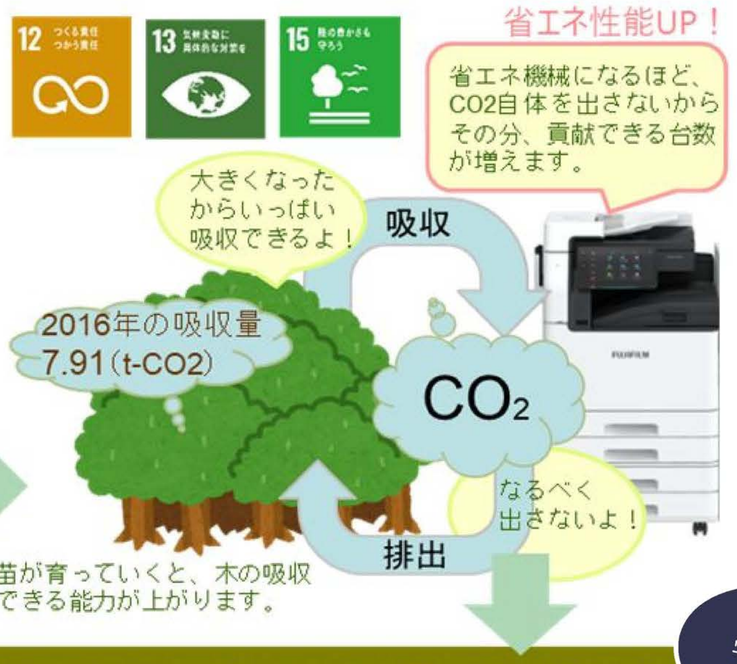
定期的に枝打ちとツル切りをすることで視界の届く明るい森に変身！杉は育ちやすくなり、人は安心して森に入ることができる。

金山町への恩返し　チップ敷きで 大美輪の散策道がきれいになりました

同じ森林所有者であり、共に活動15周年を迎える荘内銀行「荘銀かねやま絆の森」の皆さんと一緒に、金山町への恩返しとして観光地でもある大美輪で樹齢200年超の美林に囲まれながら散策コースのチップ敷きを行いました。

森は空気をつくる工場

木は、暮らしや仕事で排出したCO2を吸収し、空気をつくってくれます。私たちは企業の責任で商品の省エネ性能を追求し、なるべくCO2を出さない努力を続けています。



2010年度～2023年度の14年間で 富士フイルムＢＩ山形の森づくりは 約15,523台の複合機が1年間に排出す 二酸化炭素を吸収する活動になりました

＜富士フイルムビジネスイノベーション カラー複合機 Apeos C2570 PFSのTEC値：0.25 kWhを環境省の原単位「1kWhあたりCO2 0.521kg」で換算し算出＞
（電気事業者別排出係数：東北電力の場合）

「SDGs（エスディージーズ）」を活用しよう

山形県が推進する「やまがた木育」。私たち絆の森協定企業は、森という木育のフィールドを持っています。日頃から森で活動されている団体の方々は指導者や協力パートナーとしてSDGsに取り組むことが可能です。

森づくりをしている組織はぜひ「木育」の4.アイコンを！